

# ネパール便り

ナマステ！

初めまして。国連人口基金(以下 UNFPA)ネパール事務所で国連ボランティア(職名: Youth Development Officer)として活動を行っている、飛田紫峰と申します。このネパール便りでは、自分の業務内容だけでなく、ネパールという国について紹介していきたいと思っております。

## 1. ネパール国の概要

ネパール(正式名称:ネパール連邦民主共和国)は東、西、南の三方をインドに、北方を中国チベット自治区に接する細長い内陸国です。国内の標高差は激しく、最高所はエベレストで標高 8,850 メートル、最低所はインド国境近辺の標高 70 メートル、つまり 8,780 メートルもの標高差があります。



カトマンズへ向かう飛行機からは、ヒマラヤ山脈がきれいに見えました。

2008 年に王制が廃止され民主国へと移行したこともあり、まだまだ政情不安定なところもあるようです。新聞ではネパール共産党統一毛沢東主義派(通称マオイスト)の活動が一面に載ることはしょっちゅうですし、軍隊が道端に立って車の検問を頻繁に行っています。それでも、基本的には特に問題もなく普通の生活を送っております。

「普通の生活」と書きましたが、実は 2009 年 2 月現在、カトマンズでは計画停電が行われており、なんと 1 日 16 時間もの停電が実施されています。ここまで長い停電は私もさすがに経験したことがないので、正直何とかしてくれ！と叫びたい気分になっています。春になるとヒマラヤの氷が溶けるので、多少は停電時間が減られるようですが…(ネパールでは電力の大半が水力発電なのです)。

## 2. 配属先および業務内容

現在私は UNFPA ネパール事務所に配属されております。業務内容はひと言で言うと、**青少年の主体的社会参加の促進**といったところでしょうか。

UNFPA では青少年を対象としたプログラムを実施・支援しており、ネパール事務所でも関連した事業を展開しております。



UN の車から見た、カトマンズの様子です。さすがに外に出てビデオを撮る勇気はありませんでした…。



これはストゥーパといって、供養のために仏舎利を安置した建造物だそうです。日本語でいう卒塔婆(そとうば)のことらしいです。

同様に、ネパール政府も青少年に着目するようになり、政府の開発計画である「暫定3カ年計画(2007/08 - 2009/10)」において初めて青少年問題についての記述がなされました。それに伴い、昨年末新たに「青少年・スポーツ省」が発足しました。

このように、近年青少年を対象とした対策の必要性が取り上げられてきております。私の業務は、政府(主に青少年・スポーツ省)やNGOを巻き込むことによって、青少年のニーズに対応することが目的であるため、責任の大きい業務だと感じています。そのため「自分にはできるのだろうか?」と不安になることは否めませんが、同時に非常にやりがいのあるものだと思っております。

それでも、まだ着任して2ヶ月目、未だに業務らしきことはしておりません。次回のお便りでは、何らかの報告ができれば、と思っております。